

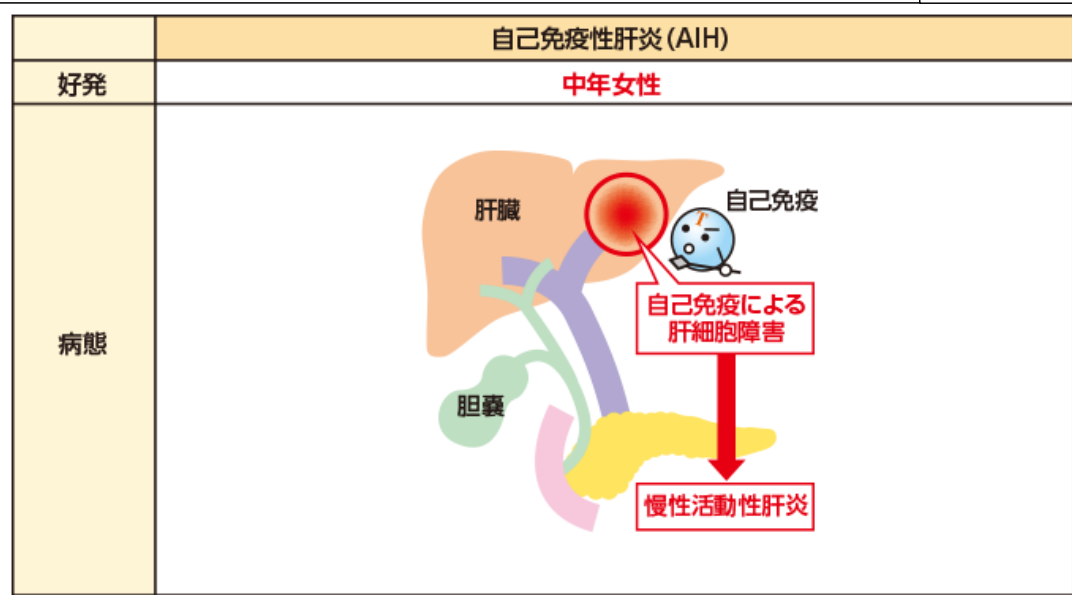
## はじめに

日ごとに暖かくなり、すっかり春らしい陽気になりましたね。  
今回で第9回目となります。これまで肝疾患、肝臓の働き等について記載してきました。  
今回は自己免疫性肝疾患に関して記載します。

## 自己免疫性肝炎

自己免疫性肝炎 (AIH:Auto Immune Hepatitis)は、典型的には慢性に肝機能障害をきたす疾患であり、中年女性に好発します。無症状のことも多いですが、全身倦怠感や黄疸などの慢性肝炎様症状に加え、ウイルス性慢性肝炎では少ない発熱や関節痛、皮疹といった症状を呈することがあります。

約1/3の症例で他の自己免疫性疾患の合併がみられます。  
遺伝要因として、わが国ではHLA-DR4陽性例が多く、欧米ではHLA-DR3またはDR4陽性例が多い。環境要因としては、ウイルス感染、薬物などがあります



### 診断基準

- ① 他の原因による肝障害が否定される
  - ② 抗核抗体陽性あるいは抗平滑筋抗体陽性
  - ③ IgG 高値 (V基準値上限1.1倍)
  - ④ 組織学的に interface hepatitis や形質細胞浸潤がみられる
  - ⑤ 副腎皮質ステロイドが著効する
- 典型例…①を満たし、②～⑤のうち3項目以上を認めます
- 非典型例…①を満たし、②～⑤の所見の1～2項目を認めます

### 治療

自己免疫性肝炎の治療は血清トランスアミナーゼの持続正常化を目標とし、原則として免疫抑制療法などの薬物療法が行われます。  
第一選択薬の副腎皮質ステロイドは中止後の再発率が高いため、原則として治療中止は困難です。

文責 佐藤 裕貴